

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：ネパール

日付：2021年4月30日

報告書名：平成30年度 日本NGO連携無償資金協力事業 完了報告書

平成30年度 日本NGO連携無償資金協力 完了報告書

事業名	ヌワコット郡、ラスワ郡の被災小学校における防災能力強化事業（3年次） Strengthening Resilience of Earthquake Affected Schools in Nuwakot and Rasuwa district, Nepal	
事業対象地	ネパール ヌワコット郡、ラスワ郡	
事業期間	事業期間年：2019年2月28日～2021年1月31日	
公的資金種別	平成30年度 日本NGO連携無償資金協力	
総支出	総支出：599,216米ドル	
プロジェクト目標および、その達成度	本事業は「ヌワコット郡、ラスワ郡において学校及び地域の防災レジリエンス（能力）が強化され、他地域にも普及していく」ことをプロジェクト目標とし、防災に配慮した学習環境の整備（学校再建）、防災教育、学校防災計画の策定、学校、行政や地域住民を対象とした防災計画に関するワークショップの実施を通じ、地域全体の防災能力の向上に取り組んだ。活動の結果、本事業の成果の一つである防災紙芝居6タイトルが当会の対象校24校以外に、他郡の81のコミュニティ図書館やコミュニティラーニングセンター、学校で活用されており、プロジェクト目標の達成度はおおむね達成としたといえる。	
実施内容 概要	<p>（ア）教育省の耐震基準に準じた学校校舎の再建 教育行政機関からの要請とニーズ調査に基づいて選定した、ヌワコット郡およびラスワ郡の3校・18教室の校舎建設は、計画時には2020年2月に完了予定であったが、コロナ禍によるロックダウンならびに雨季における道路の悪化のため2021年1月に完了した。復興庁の縮小に伴い、ヌワコット郡のDLPIUが認証調査を実施できなかったため、対象校の自治体の建設エンジニアに認証を依頼し、自治体からの認証レターを受領した。また児童の衛生面、安全面から必要な学校にトイレ、擁壁、フェンスを設置した。また、水タンクの設置、各教室に家具・備品、ホワイトボードの配布を行った。幼児クラスにはカーペット、円形のテーブル、靴箱、おもちゃ箱を供与した。教員・学校運営委員会を対象に施設の維持管理研修を各学校において実施し、合計で教員16名、学校運営委員会メンバーと保護者61名の計77名が参加した。</p>	受益者数 3校合計 18教室 371名（児童）

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：ネパール

日付：2021年4月30日

報告書名：平成30年度 日本 NGO 連携無償資金協力事業 完了報告書

	<p>(イ) 対象校の教員による図書館活動を通じた防災教育の実践</p> <p>① 図書コーナーの設置 3年次に校舎建設を実施した学校(以下建設校)3校とその周辺校(以下周辺校)9校の幼児クラスから5年生までの各教室に図書コーナー(本棚と約100冊の図書)を設置した。周辺校への支援は自己資金にて実施した。配架した図書はカトマンズの出版社、ネパール人絵本作家・図書館司書からのヒアリングを基に児童の年齢にあった絵本を幅広い分野から選定した。</p> <p>② 防災紙芝居作成 防災紙芝居を自己資金にて『雷と火災』、『危ないーネパールの災害』の2タイトル、各150部ずつ作成した。絵コンテ作成段階で日本の紙芝居作家に助言指導を頂き、質の確保に努めた。紙芝居は計38校に配布した。また、紙芝居の演じ方の研修を行ったうえで他のNGOを通じて、86の小学校やコミュニティ図書館、コミュニティ学習センターに配布した。</p> <p>③ 図書活動研修 2日間の図書活動研修を2カ所で行い、上述の建設校および周辺校計12校から計39名の教員が参加した。本研修では、①図書コーナーの活用および運営方法、②防災紙芝居の適切な演じ方等を指導した。</p>	<p>③ 12校およびコミュニティ学習センターから39名の教員が参加</p>
	<p>(ウ) 対象校における防災計画の策定 教員、学校運営委員会を対象に学校防災計画策定研修を建設校の3校において実施し、合計で12校(建設校3校、周辺校9校)から教員28名、学校運営委員会メンバー24名の計52名が参加した。本研修ではネパールで発生する災害知識(地震、土砂災害、雷、火災、洪水等)を学ぶと共に、学校ごとに学校防災計画を作成し、災害時の危険箇所、避難経路、避難場所を選定した。捜査班、救護班、連絡班を編成し、災害時の教員の役割を明確化した。</p>	<p>12校の教員28名および学校運営委員会メンバー24名</p>
	<p>(エ) 対象校の教員、学校運営委員会、地域住民、行政職員の防災に対する理解の向上 各校が策定した学校防災計画に基づいて、建設校3校、周辺校9校で避難訓練を行い(自己資金にて執行)、児童826名、</p>	<p>12校939名(うち児童826名)</p>

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：ネパール

日付：2021年4月30日

報告書名：平成30年度 日本NGO連携無償資金協力事業 完了報告書

	<p>教員 62 名、学校運営委員会および保護者 51 名の計 939 名が参加した。避難訓練の実施前に、学校運営委員会および保護者に対して学校防災計画を説明するとともに、防災紙芝居を演じ、防災に対する理解を高めた。</p>														
	<p>(オ) モニタリング・評価</p> <p>校舎建設については、コロナ禍によるロックダウン、雨季で建設工事が中断した時期、ダシャイン休みの期間を除いて、当会の建設エンジニアが各対象校 1 校につき、ほぼ毎週モニタリングを行い、建設工事および資材の質の確保に努めた。図書コーナーならびに防災紙芝居については、建設校 3 校の活用状況を 2021 年 3 月にモニタリングを行った。</p>														
成果	<p>本事業で取り組んだ上記活動の成果について、下記の指標に基づいて確認した。</p> <p>【期待される成果】</p> <p>1. 教育省の耐震基準に準じて再建された学校校舎が利用される。</p> <p>【指標】</p> <p>対象校(9校)が再建された学校校舎を利用している。</p> <p>【達成度】</p> <p>9校とも校舎完成後にヌワコット郡の教育省および復興庁の校舎建設監督機関である District Level Project Implementation Unit (DLPIU)あるいは自治体教育課の実地検証を受け、設計図通りに完成したことを認証する書簡を受領していることから、目標は達成されたと言える。建設した耐震構造校舎の教室数と児童数は以下の通り。児童数は支援前年の6月に収集した登録児童数である。支援後の登録児童数は9校とも2021年3月に収集した。これにより1年次支援校については支援完了3年後の本活動のインパクトを、2年次支援校についてはは支援完了2年後の本活動のインパクトを測定することができた。3年間の9校の合計で支援前の887名から支援後の1118名に26.0%増加した。この理由は、学習環境が改善されたことにより、遠隔地にある他校に通っていた児童が本事業対象校に通うようになったためである。またスクールバス等で私立学校に児童を通わせていた世帯は、コロナ禍の影響により収入が減ったため、私立学校の学費負担が困難になったためとも言われている。一方、2年次のうち1校において登録児童数が18%減少している。この理由は、校長によると近隣に低授業料の私立学校が設立されたためである。</p>														
	<table border="1"><thead><tr><th rowspan="2">学校名</th><th rowspan="2">運営されているクラス</th><th colspan="3">登録児童数</th></tr><tr><th>事業開始前</th><th>事業実施後 2021年3月</th><th>増減率 (備考)</th></tr></thead><tbody><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table>	学校名	運営されているクラス	登録児童数			事業開始前	事業実施後 2021年3月	増減率 (備考)						
学校名	運営されているクラス			登録児童数											
		事業開始前	事業実施後 2021年3月	増減率 (備考)											

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：ネパール

日付：2021年4月30日

報告書名：平成30年度 日本NGO連携無償資金協力事業 完了報告書

1年次対象校																			
ラムチャンドラ校	ECDクラスから8年生	183名	246名	34%増															
シタダル校	ECDクラスから6年生	129名	193名	50%増															
	5年生クラスまでだったが2019年度に6年生クラスまで拡張した。																		
シャンティデビ校	ECDクラスから5年生	62名	65名	5%増															
2年次対象校																			
マヘンドラ校	ECDクラスから5年生	60名	49名	18%減															
サラスワティ校	ECDクラスから5年生	60名	59名	2%増															
ジャブッダ校:	ECDクラスから5年生	72名	81名	13%増															
3年次対象校																			
インディラヤニ校	1年生から4年生	31名	45名	45%増															
ナラヤン校	ECDから4年生	34名	51名	50%増															
ガウタム・ブッダ校	ECDから10年生	256名	329名	29%増															
3年間合計	9校で55教室を建設	887名	1,118名	26%増															
<p>【期待される成果】</p> <p>2. 対象校の教員が図書館活動を通じた防災教育を実践できるようになる。</p> <p>【指標①】</p> <p>対象校(9校)の教員の80%以上がおはなし、ゲーム、教材制作、場づくりを実施している</p> <p>【達成度】</p> <p>2021年3月に実施した、3年次建設対象校の校長へのインタビューおよび教員へのアンケート調査結果は以下の通りで、紙芝居、絵本の読み聞かせ共に目標値以上の割合で実践されている。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>防災紙芝居を月に1回以上演じている教員の割合</th> <th>月に1回以上絵本の読み聞かせをしている教員の割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年次対象校</td> <td>93%</td> <td>73%</td> </tr> <tr> <td>2年次対象校</td> <td>79%</td> <td>86%</td> </tr> <tr> <td>3年次対象校</td> <td>71%</td> <td>86%</td> </tr> <tr> <td>平均</td> <td>81%</td> <td>82%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【指標②】</p>						防災紙芝居を月に1回以上演じている教員の割合	月に1回以上絵本の読み聞かせをしている教員の割合	1年次対象校	93%	73%	2年次対象校	79%	86%	3年次対象校	71%	86%	平均	81%	82%
	防災紙芝居を月に1回以上演じている教員の割合	月に1回以上絵本の読み聞かせをしている教員の割合																	
1年次対象校	93%	73%																	
2年次対象校	79%	86%																	
3年次対象校	71%	86%																	
平均	81%	82%																	

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：ネパール

日付：2021年4月30日

報告書名：平成30年度 日本NGO連携無償資金協力事業 完了報告書

対象校(9校)の子供の80%以上が図書室もしくはコーナーを利用している

【達成度】

2021年3月に実施した、3年次を対象校への教員へのアンケート調査結果は以下の通り。3年次の対象校のうち2校はコロナ禍のため、建設完了が遅れ、これにともない図書コーナー設置も教員研修を実施した2019年12月から1年2カ月後の2021年3月に実施したため、教員が研修の成果を十分に活かしていないためであると考えられる。このため、上記のアンケート調査を実施した際、図書コーナー活用法について助言・指導を教員に対して行った。9校平均して、89%の児童が日常的に図書コーナーの本を読んでおり、目標は達成された。

	図書コーナーを週に3回以上利用している児童の割合
1年次対象校	100%
2年次対象校	100%
3年次対象校	68%
平均	89%

【期待される成果】

3. 対象校にて防災計画が策定される。

【指標】

対象校(9校)の80%以上が独自の学校防災計画を利用している。

【達成度】

9校とも学校の敷地、校舎の階数、配置、運動場のスペースに応じた学校防災計画を策定し、教員室に掲示している。また2020年2月まで建設が完了した7校は、防災計画に基づいて避難訓練を自主的に実施した。

【期待される成果】

4. 対象校教員、学校運営委員会、地域住民、郡教育局の職員の防災に対する理解が向上する。

【指標①】

対象校(9校)の教員、学校運営委員会、地域住民、郡教育局の80%以上が防災に関する必要な知識を有している。

【達成度】

児童、教員、学校運営委員会および保護者へのアンケート調査を行い、事業の効果を測定した。結果は以下の通りで、総合評価において児童は75%とほぼ目標値を達成、教員は93%と目標値を大きく達成、学校運営委員会・保護者は70%と目標値にはとどかなかつたものの、事業実施前が35%であったので、大幅に改善した。

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：ネパール

日付：2021年4月30日

報告書名：平成30年度 日本 NGO 連携無償資金協力事業 完了報告書

<児童>			
質問	対象	事業前	事業後
地震発生の原因を知っている。	1年次	0%	50%
	2年次	7%	87%
	3年次	0%	32%
	平均	2%	56%
地震が起きた時どうすれば良いか知っている。	1年次	50%	100%
	2年次	27%	100%
	3年次	55%	77%
	平均	44%	93%
総合評価		23%	75%
<教員>			
質問	対象	事業前	事業後
地震発生の原因を知っている。	1年次	45%	91%
	2年次	84%	100%
	3年次	64%	73%
	平均	64%	88%
地震が起きた時どうすれば良いか知っている。	1年次	100%	100%
	2年次	89%	100%
	3年次	82%	91%
	平均	90%	97%
地震について児童に教えたことがある。	1年次	64%	100%
	2年次	95%	100%
	3年次	45%	100%
	平均	78%	100%
地震が起きた時どうすれば良いのか児童に教えることができる。	1年次	64%	100%
	2年次	74%	85%
	3年次	63%	73%
	平均	67%	86%
総合評価		75%	93%
<学校運営委員会・保護者>			
質問	対象	事業前	事業後
地震発生の原因を知っている。	1年次	0%	50%
	2年次	13%	33%
	3年次	20%	40%

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：ネパール

日付：2021年4月30日

報告書名：平成30年度 日本 NGO 連携無償資金協力事業 完了報告書

		平均	11%	41%
	地震が起きた時どうすれば 良いか知っている。	1年次	83%	100%
		2年次	73%	100%
		3年次	20%	100%
		平均	59%	100%
総合評価		35%	70%	
<p>【指標②】 対象校(9校)に通う子ども及び親の80%以上が学校防災計画の存在を認知している。</p> <p>【達成度】 児童、保護者へのインタビュー結果は以下の通りで、共に目標値を達成できなかった。この理由としては、質問が学校防災計画の存在を認知している割合ではなく、理解している割合なので、質問のレベルが指標よりも高いことがあげられる。</p>				
	学校防災計画を理解している 児童の割合	学校防災計画を理解している保 護者の割合		
1年次対象校	71%	43%		
2年次対象校	43%	43%		
3年次対象校	73%	60%		
平均	62%	49%		
課題と対応策	新型コロナウイルス感染拡大とそれに伴うロックダウン措置や移動制限の影響を受け、校舎建設が遅れたため、事業期間を大幅に延長した。			